



平成19年11月6日

各 位

会社名 株式会社日本航空
代表者名 代表取締役社長 西松 遙
コード番号 9205 (東証・大証・名証 第1部)
問合せ先 IR部長 西 和彦
電話番号 (03) 5460-6600

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月9日の平成19年3月期決算時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成20年3月期 通期連結業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成19年5月9日発表)	2,197,000	21,000	7,000
今回修正予想 (B)	2,238,000	44,000	7,000
増減額 (B-A)	41,000	23,000	—
増減率 (%)	1.9	109.5	—
(ご参考) (前期実績(平成19年3月期))	2,301,915	20,576	-16,267

2. 業績予想の修正の理由

当社の業績は、国際旅客が旺盛なビジネス需要を背景に旅客数、単価ともに想定を上回って好調に推移しているほか、国内旅客、国際貨物も概ね想定どおり堅調に推移しており、航空運送事業の復調が収益の回復に大きく寄与しています。こうしたトレンドは、下期以降プレミアム戦略の効果がより顕現化してくることもあり今後も継続することを予想しています。一方、費用については、人件費等が想定を下回るペースで順調に低下しているものの、燃油価格がバレルあたり100ドルを超える等高騰を続けているなか、下期の燃油ヘッジ比率は約73%にとどまっていることから、燃油費が想定を上回る見込みにあります。しかしながら、聖域なき費用削減に継続的に取り組んでいる効果が確実に現れてきていることもあり、営業収益、経常利益は当初見通しを上回る予定です。特別損益は、機材退役に伴う航空機の減損損失、更には独禁法関連引当金繰入額の計上等により損失が拡大します。また、今年度の連結営業利益の見通しには、退職一時金制度の見直しに伴い発生する過去勤務債務の償却による退職給付費用200億円の削減が反映されます。

以上の結果、前回発表業績予想に比べ売上高は2兆2,380億円(前回発表予想比+410億)、営業利益は480億円(同+130億円)、経常利益は440億円(同+230億円)と大幅に改善する見通しですが、連結当期純利益につきましては当初計画どおり70億円となる見込みです。

以上